

## 2024年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年10月15日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 AFC-HD アムスライフサイエンス

コード番号 2927 URL https://www.ams-life.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 浅山 雄彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役会長室長 (氏名) 南方 茂穂 TEL 054-281-5238

定時株主総会開催予定日 2024年11月26日 配当支払開始予定日 2024年11月27日

有価証券報告書提出予定日 2024年11月27日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年8月期の連結業績(2023年9月1日~2024年8月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期	30,185	18.0	1,916	17.1	1,921	16.2	1,252	13.6
2023年8月期	25,579	11.1	1,636	61.2	1,654	23.1	1,102	49.9

(注1) 2024年8月期 売上高 : 対前期比 118.0%

営業利益 : 対前期比 117.1%

経常利益 : 対前期比 116.2%

親会社株主に帰属する当期純利益 : 対前期比 113.6%

(注2) 包括利益 2024年8月期 1,143百万円(△0.1%) 2023年8月期 1,144百万円(38.3%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年8月期	89.20	89.11	9.3	4.4	6.3
2023年8月期	78.51	78.46	8.6	4.2	6.4

(参考) 持分法投資損益 2024年8月期 -百万円 2023年8月期 -百万円

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年8月期	47,030	13,958	29.6	990.10
2023年8月期	41,071	13,157	31.9	938.25

(参考) 自己資本 2024年8月期 13,924百万円 2023年8月期 13,108百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年8月期	1,540	△2,761	2,232	12,070
2023年8月期	865	△1,946	1,881	11,062

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年8月期	-	12.50	-	15.00	27.50	385	35.0	3.0
2024年8月期	-	15.00	-	15.00	30.00	420	33.6	3.1
2025年8月期(予想)	-	16.00	-	16.00	32.00		34.1	

### 3. 2025年8月期の連結業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	16,400	12.8	1,200	17.3	1,200	13.2	720	12.3	51.15
通期	31,100	3.0	2,200	14.8	2,200	14.5	1,320	5.4	93.78

（注）2025年8月期通期予想 売上高：対前期比 103.0%  
 営業利益：対前期比 114.8%  
 経常利益：対前期比 114.5%  
 親会社株主に帰属する当期純利益：対前期比 105.4%

#### ※注記事項

- （1）期中における連結範囲の重要な変更：無
- （2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ①会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ②①以外の会計方針の変更：無
  - ③会計上の見積りの変更：無
  - ④修正再表示：無

#### （3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年8月期	14,387,699株	2023年8月期	14,387,699株
② 期末自己株式数	2024年8月期	323,894株	2023年8月期	416,094株
③ 期中平均株式数	2024年8月期	14,037,133株	2023年8月期	14,044,029株

#### （参考）個別業績の概要

#### 2024年8月期の個別業績（2023年9月1日～2024年8月31日）

##### （1）個別経営成績

（％表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期	14,081	18.0	1,179	10.5	1,364	7.1	969	1.6
2023年8月期	11,932	2.7	1,067	17.3	1,273	21.9	953	31.7

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期	69.06	68.99
2023年8月期	67.93	67.88

##### （2）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年8月期	31,488	11,273	35.8	801.59
2023年8月期	29,173	10,676	36.6	764.17

（参考）自己資本 2024年8月期 11,273百万円 2023年8月期 10,676百万円

※決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、【添付資料】P4（今後の見通し）をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
連結損益計算書 .....	7
連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	15

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当期における我が国経済は、各分野においてコロナ禍より順次回復を遂げつつある状況の下、物価の上昇とあいまって政府主導の賃上げの経済効果が徐々に消費者の購買意欲を高め、インバウンドの回復と合わせ、今後の成長が期待されると共に、生き残りをかけた企業間競争が一層激化しつつある状況にあります。

斯様な経済環境の下、当社グループは、これを企業規模の一層の拡大と多角化による強靱な体質を構築する好機と捉え、主体部門であるOEM部門や医薬品事業等の生産販売体制強化に尽力し、生産性・収益性の向上に努めました。また、既存の観光・飲食部門等との連携強化を背景に、今年7月には貸切バス事業を手掛ける企業をグループ会社化し、昨年10月には建設・不動産・飲食事業等を展開する国内企業を連結子会社化し、新たに三本目の柱を育成すべく新規部門への積極投資を行いました。

連結業績につきましては、ヘルスケア事業における海外部門が大躍進したことに加え、ヘルスケア事業のOEM部門、自社製品販売部門並びに医薬品事業も好調に推移したことにより、売上高は30,185百万円（前期比118.0%）となりました。利益面につきましては、増収効果により売上総利益が増加し、営業利益は1,916百万円（前期比117.1%）、経常利益は1,921百万円（前期比116.2%）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,252百万円（前期比113.6%）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① ヘルスケア事業

##### ・OEM部門

ドラッグストアをはじめとする店舗販売業の顧客において、来客数の増加やインバウンド消費の回復等により受注が増加いたしました。さらに、ロコモ対策やアイケア、ダイエット訴求等の機能性表示食品の受注が堅調に推移いたしました。人材の採用・育成を中心に営業体制の強化を図っております。

生産面においては、イスラム圏での売上拡大を図るため、千葉工場のハラル認証取得に向け取り組み、8月に認証機関の監査を受けました。また、同工場の生産性を高めるため、倉庫兼出荷作業棟の建設を進めております。

##### ・自社製品販売部門

海外販売は、コロナ収束に伴い既存顧客における美容商材の受注が回復基調で推移いたしました。加えて、円安影響による購買意欲の高まりや、育成中の外国人営業スタッフによる母国等での新規顧客獲得により受注が伸び始めております。店舗販売は、外商顧客への販売強化が売上に寄与いたしました。通信販売は、機能性表示食品の販売に注力し、アイケアやダイエット商材等が好調に推移いたしました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高18,099百万円（前期比118.7%）、営業利益2,711百万円（前期比136.1%）となりました。

#### ② 医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、薬局・薬店で購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医薬品事業の好調を牽引している一般用医薬品のOEM受注が増加したほか、医療用医薬品については、重点販売製品として位置付けている自社製造、医療用ジェネリック医薬品『ピムロ顆粒』（下剤）、生活改善薬のジェネリック医薬品『シルデナフィル錠』『フィナスチド錠』『タダラフィル錠』が順調に売上を伸ばしました。加えて、今年4月より医療用漢方製剤の薬価が上がったことから、利益面において安定的に黒字が出せる体制となりました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高2,310百万円（前期比110.7%）、営業利益215百万円（前期比106.7%）となりました。

## ③ 百貨店事業

さいか屋において、藤沢店では、ヤマダデンキが昨年6月に開店して以降、百貨店ゾーンとの相乗効果が得られたことに加え、賃料収入が拡大しました。これに続き、横須賀店では、地下1階に食品スーパー「ヨークフーズ」が3月20日に開店、1階にドラッグストア「サンドラッグ」が6月19日に開店したことにより、藤沢店と同様の効果が出ております。更に、横須賀店3階への「ファッションプラザ パシオス」「シュープラザ」開店(9月25日)、藤沢店地下1階への食品スーパー「ライフ」開店(今秋)に伴う改装セールを開催し、売上増に寄与するとともに、当該テナント開店以降の更なる賃料収入の拡大を見込んでおります。

自社運営の金地金買取におきましては、金の市場価値の高騰により通期を通じて好調に推移いたしました。また、新規事業として、藤沢店にて若手社員が中心となり自主運営するショップ「mili mili byさいか屋」を5月8日に開店、グループのシナジー効果を活用した事業として横須賀店に「うなぎの佳川 さいか屋横須賀店」が開店しており、連日多くのお客様にご来店いただいております。

以上の結果、百貨店事業の業績は、売上高4,945百万円(前期比95.0%)、営業利益33百万円(前期比35.3%)となりました。

## ④ 飲食事業

なすび各店舗において全体的に回復傾向にあり、中でも法人関係の忘年会・新年会・歓送迎会や観光団体、法事等、得意分野である団体客の来店が売上増に大きく寄与いたしました。加えて、既存店の改装や新規出店により効率化と新たな客層の獲得に注力しました。昨年9月に、日本テレビ系列の番組「ヒューマングルメンタリー オモウマイ店」にて紹介された「なすび総本店」は、全国からの集客につながりジャンボ海老フライ御膳が好評を得ております。またそれに続くインパクトのある商品開発を行い、個人客の集客につなげました。利益面においても、作業効率の向上やメニューの見直し、新商品開発等により原価率の適正化に注力しております。

以上の結果、飲食事業の業績は、売上高2,164百万円(前期比146.0%)、営業損失70百万円(前期に比べ48百万円の営業利益の改善)となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

## ① 流動資産

当連結会計年度末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,219百万円増加し、22,094百万円となりました。この増加要因は主として、販売用不動産を含んだ商品及び製品が1,613百万円、現金及び預金が990百万円増加したことによるものであります。

## ② 固定資産

当連結会計年度末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ3,739百万円増加し、24,936百万円となりました。この増加要因は主として、有形固定資産が2,271百万円、無形固定資産が1,134百万円増加したことによるものであります。

## ③ 流動負債

当連結会計年度末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,767百万円増加し、17,622百万円となりました。この増加要因は主として、短期借入金が1,164百万円、流動負債のその他が673百万円、契約負債が235百万円、1年以内返済予定の長期借入金が216百万円増加したことによるものであります。

## ④ 固定負債

当連結会計年度末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,390百万円増加し、15,450百万円となりました。この増加要因は主として、長期借入金が1,973百万円増加したことによるものであります。

## ⑤ 純資産

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ800百万円増加し、13,958百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が825百万円増加したことによるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,008百万円増加し、当連結会計年度末は12,070百万円となりました。

その内容は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,540百万円（前期比674百万円の収入増）となりました。

これは主として、棚卸資産の増加額1,433百万円、法人税等の支払額575百万円などにより資金が減少した反面、税金等調整前当期純利益1,910百万円、減価償却費862百万円、のれん償却額222百万円などにより資金が増加したことによるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は2,761百万円（前期比815百万円の支出増）となりました。

これは主として、投資有価証券の売却による収入1,074百万円などにより資金が増加した反面、有形及び無形固定資産の取得による支出3,406百万円などにより資金が減少したものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は2,232百万円（前期比350百万円の収入増）となりました。

これは主として、長期借入金の返済による支出486百万円、配当金の支払額418百万円などにより資金が減少した反面、短期借入金の純増加額1,003百万円、長期借入れによる収入2,172百万円などにより資金が増加したことによるものであります。

(4) 今後の見通し

主要事業であるヘルスケア事業及び医薬品事業は、引き続き、好調を維持しております。百貨店事業の(株)さいか屋は、主だったテナントの出店を10月に終え、入店客数の増加による相乗効果が見込まれます。飲食事業の(株)なすび及びFSC(株)は、法人客及び観光客が回復傾向にあり、この需要が続くものと思われまます。これらに加え、前期に種まきした建託事業及び観光事業に、注力して参ります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループの利害関係者の多くは、国内の株主、債権者、取引先等であり、国内の同業他社との比較可能性を考慮し、会計基準につきましては日本基準を採用しております。

なお、今後につきましては、外国人株主比率の推移や国内外の諸情勢を考慮の上、国際財務報告基準（IFRS）の適用について適切に対応していく方針であります

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当連結会計年度 (2024年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,182,021	12,172,810
受取手形	238,719	296,777
売掛金	2,603,430	2,514,933
契約資産	—	22,119
商品及び製品	1,502,111	1,921,782
販売用不動産	192,864	1,386,745
仕掛品	1,160,185	1,294,471
原材料及び貯蔵品	1,507,705	1,378,525
その他	1,502,050	1,125,748
貸倒引当金	△14,023	△19,366
流動資産合計	19,875,063	22,094,548
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,774,709	22,878,306
減価償却累計額	△15,646,752	△15,807,149
建物及び構築物（純額）	6,127,957	7,071,157
機械装置及び運搬具	3,764,167	3,981,635
減価償却累計額	△3,092,134	△3,229,564
機械装置及び運搬具（純額）	672,032	752,071
土地	10,057,600	10,551,423
建設仮勘定	154,918	542,705
その他	1,057,964	1,705,303
減価償却累計額	△925,565	△1,206,392
その他（純額）	132,399	498,911
有形固定資産合計	17,144,907	19,416,269
無形固定資産		
のれん	1,289,580	2,349,212
その他	91,937	167,140
無形固定資産合計	1,381,518	2,516,353
投資その他の資産		
投資有価証券	540,136	588,827
繰延税金資産	112,985	146,594
その他	2,076,177	2,326,388
貸倒引当金	△59,039	△58,297
投資その他の資産合計	2,670,259	3,003,513
固定資産合計	21,196,685	24,936,136
資産合計	41,071,748	47,030,684

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当連結会計年度 (2024年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,265,335	3,586,652
短期借入金	7,914,677	9,078,696
1年内返済予定の長期借入金	303,228	519,817
未払法人税等	368,337	506,356
賞与引当金	170,085	188,959
契約負債	1,567,449	1,803,053
その他	1,265,296	1,938,606
流動負債合計	14,854,410	17,622,142
固定負債		
長期借入金	11,319,911	13,293,145
繰延税金負債	258,694	229,635
役員退職慰労引当金	255,807	294,184
退職給付に係る負債	736,923	728,021
その他	488,547	905,456
固定負債合計	13,059,885	15,450,443
負債合計	27,914,295	33,072,586
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,638,998	2,650,924
利益剰余金	8,589,284	9,415,025
自己株式	△353,345	△275,049
株主資本合計	13,006,776	13,922,739
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,440	△62,501
為替換算調整勘定	30,278	24,373
退職給付に係る調整累計額	52,327	39,998
その他の包括利益累計額合計	102,045	1,870
新株予約権	—	9,229
非支配株主持分	48,630	24,258
純資産合計	13,157,452	13,958,098
負債純資産合計	41,071,748	47,030,684



## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)	当連結会計年度 (自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)
売上高	25,579,009	30,185,451
売上原価	16,256,131	19,693,596
売上総利益	9,322,878	10,491,854
販売費及び一般管理費	7,686,592	8,575,665
営業利益	1,636,285	1,916,188
営業外収益		
受取利息	4,187	2,457
受取配当金	12,098	7,977
投資有価証券売却益	44,378	60,157
受取賃貸料	14,850	19,714
助成金収入	16,941	—
償却債権取立益	—	10,000
固定資産受贈益	—	12,040
有価証券償還益	—	26,127
その他	24,198	52,473
営業外収益合計	116,655	190,947
営業外費用		
支払利息	57,555	101,271
投資有価証券売却損	8,516	553
その他	32,761	83,890
営業外費用合計	98,833	185,714
経常利益	1,654,107	1,921,421
特別利益		
固定資産売却益	267	55,292
債務免除益	46,838	—
新株予約権戻入益	332	—
負ののれん発生益	—	10,356
その他	210	1,105
特別利益合計	47,648	66,754
特別損失		
固定資産売却損	7	17,845
固定資産除却損	31,618	15,112
投資有価証券評価損	—	27,622
減損損失	273	—
役員退職慰労金	—	—
店舗閉鎖損失	28,277	—
火災損害等損失	—	8,430
事業構造改善費用	95,610	8,319
その他	—	43
特別損失合計	155,787	77,374
税金等調整前当期純利益	1,545,969	1,910,802
法人税、住民税及び事業税	541,605	700,777
法人税等調整額	△102,249	△35,380
法人税等合計	439,356	665,397
当期純利益	1,106,612	1,245,405
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	4,048	△6,662
親会社株主に帰属する当期純利益	1,102,563	1,252,067

## 連結包括利益計算書

	前連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)	当連結会計年度 (自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)
当期純利益	1,106,612	1,245,405
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,248	△81,942
為替換算調整勘定	7,294	△7,281
退職給付に係る調整額	10,067	△12,328
その他の包括利益合計	37,610	△101,552
包括利益	1,144,223	1,143,852
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,137,250	1,151,735
非支配株主に係る包括利益	6,972	△7,882

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,131,839	2,640,231	7,880,483	△305,391	12,347,163
当期変動額					
剰余金の配当			△386,421		△386,421
親会社株主に帰属する当期純利益			1,102,563		1,102,563
自己株式の取得				△79,568	△79,568
自己株式の処分		△7,341		31,613	24,272
資本移動に伴う持分の変動					—
利益剰余金から資本剰余金への振替		7,341	△7,341		—
連結子会社株式の取得による持分の増減		△1,200			△1,200
連結子会社の自己株式取得による持分の増減		△32			△32
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△1,233	708,801	△47,954	659,613
当期末残高	2,131,839	2,638,998	8,589,284	△353,345	13,006,776

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘 定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	△808	25,907	42,259	67,358	24,568	6,058	12,445,149
当期変動額							
剰余金の配当							△386,421
親会社株主に帰属する当期純利益							1,102,563
自己株式の取得							△79,568
自己株式の処分							24,272
資本移動に伴う持分の変動							—
利益剰余金から資本剰余金への振替							—
連結子会社株式の取得による持分の増減							△1,200
連結子会社の自己株式取得による持分の増減							△32
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	20,248	4,371	10,067	34,686	△24,568	42,571	52,690
当期変動額合計	20,248	4,371	10,067	34,686	△24,568	42,571	712,303
当期末残高	19,440	30,278	52,326	102,045	—	48,630	13,157,452

当連結会計年度(自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,131,839	2,638,998	8,589,284	△353,345	13,006,776
当期変動額					
剰余金の配当			△420,406		△420,406
親会社株主に帰属する当期純利益			1,252,067		1,252,067
自己株式の取得					—
自己株式の処分		△5,920		78,296	72,376
資本移動に伴う持分の変動		13,188			13,188
利益剰余金から資本剰余金への振替		5,920	△5,920		—
連結子会社株式の取得による持分の増減		△1,198			△1,198
連結子会社の自己株式取得による持分の増減		△64			△64
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	11,926	825,740	78,296	915,962
当期末残高	2,131,839	2,650,924	9,415,025	△275,049	13,922,739

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	19,440	30,278	52,326	102,045	—	48,630	13,157,452
当期変動額							
剰余金の配当							△420,406
親会社株主に帰属する当期純利益							1,252,067
自己株式の取得							—
自己株式の処分							72,376
資本移動に伴う持分の変動							13,188
利益剰余金から資本剰余金への振替							—
連結子会社株式の取得による持分の増減							△1,198
連結子会社の自己株式取得による持分の増減							△64
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△81,942	△5,905	△12,328	△100,175	9,229	△24,371	△115,317
当期変動額合計	△81,942	△5,905	△12,328	△100,175	9,229	△24,371	800,646
当期末残高	△62,501	24,373	39,998	1,870	9,229	24,258	13,958,098

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)	当連結会計年度 (自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,545,969	1,910,802
減価償却費	823,920	862,646
のれん償却額	160,077	222,914
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△543	4,601
賞与引当金の増減額(△は減少)	17,572	18,874
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△19,682	△25,331
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	25,372	38,376
受取利息及び受取配当金	△16,286	△10,434
支払利息	57,555	101,271
固定資産売却損益(△は益)	△259	△37,446
固定資産除却損	31,618	15,112
投資有価証券売却損益(△は益)	△44,378	△60,157
投資有価証券評価損益(△は益)	—	12,719
助成金収入	△16,941	—
減損損失	273	—
債務免除益	△46,838	—
負ののれん発生益	—	△10,356
新株予約権戻入益	△332	—
事業構造改善費用	95,610	8,319
売上債権の増減額(△は増加)	△206,171	156,912
棚卸資産の増減額(△は増加)	△633,439	△1,433,055
仕入債務の増減額(△は減少)	△210,835	278,391
未払消費税等の増減額(△は減少)	△51,066	73,387
その他	△286,178	74,854
小計	1,225,015	2,202,402
利息及び配当金の受取額	16,265	11,229
利息の支払額	△58,840	△97,779
助成金の受取額	38,472	—
事業構造改善支出	△72,748	—
法人税等の支払額	△282,883	△575,759
営業活動によるキャッシュ・フロー	865,280	1,540,093

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)	当連結会計年度 (自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△240,000	△220,000
定期預金の払戻による収入	240,000	240,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,939,681	△3,406,797
有形及び無形固定資産の売却による収入	334	658,158
投資有価証券の取得による支出	△614,290	△1,283,537
投資有価証券の売却による収入	868,762	1,074,992
敷金及び保証金の差入による支出	△19,226	△23,010
敷金及び保証金の回収による収入	78,948	38,552
貸付金による支出	△212,000	△62,194
貸付金の回収による収入	352	62,221
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△114,146	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	162,508
その他	4,937	△2,362
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,946,009</b>	<b>△2,761,467</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,093,866	1,003,109
長期借入れによる収入	1,684,510	2,172,035
長期借入金の返済による支出	△379,812	△486,508
自己株式の取得による支出	△79,568	—
配当金の支払額	△385,107	△418,804
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,200	△1,198
その他	△51,517	△36,559
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,881,171</b>	<b>2,232,074</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,799	△2,170
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	804,242	1,008,529
現金及び現金同等物の期首残高	10,257,778	11,062,021
現金及び現金同等物の期末残高	11,062,021	12,070,550

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前連結会計年度(自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	連結財務諸 表計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	その他 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	15,249,817	2,087,128	5,203,982	1,482,588	1,555,491	25,579,009	—	25,579,009
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15,249,817	2,087,128	5,203,982	1,482,588	1,555,491	25,579,009	—	25,579,009
セグメント利益又は 損失(△)	1,991,977	202,207	94,647	△119,366	△18,500	2,150,966	△514,681	1,636,285

(注) 1. セグメント利益の調整額△514,681千円は管理部門に係る全社費用の内、各報告セグメントに配賦してない費用等であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

5SPRO Joint Stock Companyの株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「その他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は109,647千円であります。

## Ⅱ 当連結会計年度(自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	連結財務諸 表計上額 (注2)
	ヘルスケア 事業	医薬品 事業	百貨店 事業	飲食事業	その他 事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	18,099,200	2,310,475	4,945,949	2,164,564	2,665,260	30,185,451	—	30,185,451
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	101,420	—	4,193	13,412	59,052	178,080	△178,080	—
計	18,200,621	2,310,475	4,950,143	2,177,977	2,724,313	30,363,531	△178,080	30,185,451
セグメント利益又は 損失(△)	2,711,589	215,651	33,397	△70,977	△365,933	2,523,727	△607,539	1,916,188

(注) 1. セグメント利益の調整額607,539千円は管理部門に係る全社費用の内、各報告セグメントに配賦していない費用等であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

①クレアライズ株式会社の全株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「飲食事業及びその 他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、取得原価の配分の完了に伴い、784,088千円で確定しております。

②ラビット急行株式会社の全株式を取得し、同社を連結の範囲に含めたことに伴い、「その他事業」セグメントにおいてのれんを認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は503,035千円でありますが、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

③ラビットトラベル株式会社の全株式を取得し、同社を連結の範囲に含めております。これによって、負ののれん発生益が10,356千円発生しております。ただし、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には、含まれておりません。



## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)		当連結会計年度 (自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)	
1株当たり純資産額	938円25銭	1株当たり純資産額	990円10銭
1株当たり当期純利益	78円51銭	1株当たり当期純利益	89円20銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	78円46銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	89円11銭

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

項 目	前連結会計年度 (自 2022年9月1日 至 2023年8月31日)	当連結会計年度 (自 2023年9月1日 至 2024年8月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,102,563	1,252,067
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,102,563	1,252,067
普通株式の期中平均株式数(株)	14,044,029	14,037,133
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	8,541	14,387
(うち新株予約権(株))	(8,541)	(14,387)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式 の概要	連結子会社の(株)さいか屋 が発行のA種優先株式 1,483,036株	連結子会社の(株)さいか屋 が発行のA種優先株式 1,483,036株